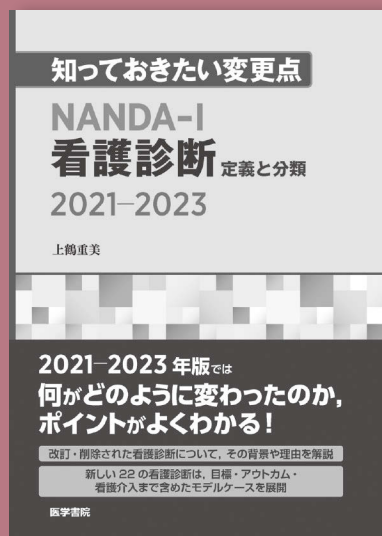


書評

知っておきたい変更点 NANDA-I 看護診断 —定義と分類 2021-2023



- 著 上鶴重美
- 定価 2200 円 (本体 2000 円 + 税 10%)
- 判型 A5
- 頁数 128
- 発行 医学書院

評者

釧路赤十字病院看護部 看護師長
木村瑞恵

臨床推論モデルにも注目したい、 待ちに待った 1 冊

当院が看護診断に取り組み始めて今年で 9 年目になります。導入してから 5 年ほどが経過した 2018 年頃は、まだ正確な看護診断ができない状況に頭を悩ませていました。そんな時に会ったのが、『知っておきたい変更点 NANDA-I 看護診断一定義と分類 2018-2020』です。その中で「臨床推論モデル」を知り、目からうろこが落ちる思いでした。このたび発行された『知っておきたい変更点 NANDA-I 看護診断一定義と分類 2021-2023』は、先述した 2018-2020 年版の改訂版です。『NANDA-I 看護診断一定義と分類 2021-2023』の変更点を解説しつつ、「臨床推論モデル」もアップデートされた、待ちに待った 1 冊です。

正確な理解につながる 分かりやすい解説

第 1 章では、追加や削除、改訂された看護診断に関して、根拠を基に分かりやすく解説されています。

第 2 章では、看護診断は常に進化し続けていることが強調されています。この章では、「症状か看護診断か？」の項に注目しました。というのも、当院は「急性疼痛」「慢性疼痛」を看護診断することが多いのですが、疼痛という症状そのものを看護介入で解決することは難しいと常々考えていたからです。2021-2023 年版も「急性疼痛」「慢性疼痛」で変わりありませんが、本書で提案されている「非効果的疼痛コントロール」に将来変更されると、対象者の行動変容に介入できると納得しました。

第 3 章では、私が感銘を受けた「臨床推論モデル」について詳しく記載されています。「臨床推論モデル」は、看護診断を真の看護過程の原動力として活用するための優れた思考過程です。当院では看護診断を使うことは定着してきました

が、看護診断と看護計画が連動していないことが多々あります。このままでは看護診断をしても、絵に描いた餅になってしまうと悩んでいた時に、この「臨床推論モデル」と出会いました。

このモデルは、看護過程に含まれる 4 つの臨床推論（診断推論、目標・アウトカム推論、看護介入推論、評価推論）から成り立っています。今回の改訂版では、診断の根拠となる診断指標に対しては対症的ケア、診断の原因となる関連因子に対しては根治的ケアで介入することが、より分かりやすく記載されています。

当院の取り組みとして、各部署の看護診断の推進者に対して臨床推論モデル研修を実施し、事後課題として、実際の患者に対して臨床推論モデルを活用した看護計画の立案を設定しました。提出された事後課題を見ると、当院の現状がよく分かり、適切な看護診断なくしては「臨床推論モデル」を活用できないことを実感しました。

第 4 章では、新たに追加された看護診断について、モデルケースを挙げ、臨床推論モデルで展開しています。モデルケースによって、新たに追加された看護診断のみならず、臨床推論モデルの理解も深まります。

看護の力が試される時代に 看護診断を

高齢者は特にこれといった疾患がなくとも活動量が減って歩行障害を起こし、セルフケアができなくなることがあります。このように医学では解決できないことも多く、高齢化に拍車がかかる今、看護の力が試される時代になっています。看護独自の力でアウトカムを出すために、看護診断は強力なツールです。本書は改訂された NANDA-I 看護診断を理解するための優れた 1 冊です。